

Jasper Johns: Eyes in the Persistence of Form

ファーガス・マカフリー 東京

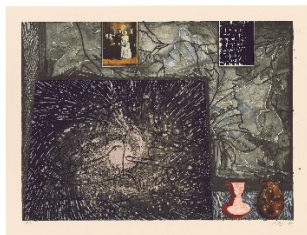
2021年9月11日(土) - 10月16日(土)

(11:00-19:00 日・月・祝 休廊)

「見ることと知ること、見ることと言うこと、見ることと信じること。私の作品はその間にある関係性を扱っているのです。」 - ジャスパー・ジョーンズ 1965年¹

ファーガス・マカフリー 東京は9月11日より「Jasper Johns: Eyes in the Persistence of Form」展を開催します。

ホイットニー美術館とフィラデルフィア美術館の2会場同時開催のジョーンズ回顧展「Jasper Johns: Mind/Mirror」(2021年9月29日~2022年2月13日)に合わせて開催される本展では、1980年代後期から2000年代初頭ジョーンズの作品に見られる、視覚を自由に解き放つような、様々な記号論的モチーフが嵐のように立ち現れる様式の版画群を展示します。アメリカ東海岸とハリケーンが多発するセント・マーチン島の2箇所生まれの作品たちは、人間の目と台風の目という、身体と比喻の両方の意味で捉えられる「目」という姿を通して、見ることは何なのか、季節性という概念を私たちに呼びおこします。



ジョーンズの初期作品は、そこに内在する(「心がすでに知っているもの」の原型としての)記号学的な本質により他に類のない存在として評価されていますが、本展に展示される後期の作品群は、初期に劣らず強烈な印象を与え、直感で認識できる要素が欠如したよりミステリアスな領域へと発展していることが分かります。それはまさに、未知の記号と過剰な意味という相反するものが渦巻く名もなき銀河のようです。しかし、注意深く作品を観察するとその記号の嵐にジョーンズが自身の目を通して作り出した秩序を見つけることができます。別の言い方をすると、作品に組み込まれた広大な意味の宝庫に踏み込むには、簡単に頭に浮かんでくる以上のものを捉える必要があるのです。ジョーンズ作品批評の第一人者であるジョン・ヤウでさえ、《Green Angel》と《Green Angel II》(このプレスに画像掲載)の中にオーギュスト・ロダンによる神話からのイメージを見つけるのに、他のアーティストからのメールメッセージという手がかりが必要だったのです。²

1950年代から70年代までの作品の多くは、彼のシグニチャーと言える旗、標的、文字、数字、クロスハッチングのモチーフで占められていたのに対し、後期の作品には伝記的、そして歴史的両方としての記憶が表現されています。ジャスパー・ジョーンズ研究者のロバータ・バーンスタインはこの時期はジョーンズにとって「ひとつの作品内に様々な時代や様式の芸術が混ざり合い、精神的な内容に満ちた情報源の適応」³の時代だと言います。作品に潜む個人的な記憶に紐づいた知覚のほのめかしは、瞑想的で持続した注意深い観察によってのみ、その意味が明らかにされるのです。



¹ Bernstein, Roberta, *Jasper Johns: Redo an Eye* (New York: The Wildenstein Plattner Institute, 2017).

² Yau, John, "Jasper Johns: Hiding in Plain Sight," *Hyperallergic* (Hyperallergic, May 29, 2021), <https://hyperallergic.com/649178/jasper-johns-hiding-in-plain-sight/>.

³ Bernstein, *Jasper Johns: Redo an Eye* (2017)



銀河の描かれた《Untitled》(1992)、《Untitled (American Center)》(1994)、《Untitled》(1995) 3 作品の中には、マティアス・グルーネヴァルトのイーゼンハイム祭壇画(1512-16)、バーネット・ニューマンのドローイング(ジョーンズ自身のコレクション作品)、パブロ・ピカソの《イカロスの墜落》(1958)、ジョージ・オアの壺、エリザベス女王即位 25 周年記念花瓶、家族写真(1905 頃)、キュビズムとシュルレアリスムの記号論的手法に基づいた反射を示唆する木の鏡のへりなど、様々な参照が組み込まれています。これらの作品は、作品を見たときにまず目に飛び込んでくる銀河のエネルギーをベースに成立しており、そしてその原動力となっているのは台風の目、渦巻きだということが即座に識別できます。

似た視覚的スタイルは同時期に作られた、人間の目が描かれる作品にも認められます。1995 年に制作された 3 つの無題の版画作品、《Face with Watch》(1996)、《Untitled》(2016) のすべての作品には右と左辺に沿って切り取られた目が配されています。(全て本展にて展示) 深く考察すると、それは中の要素が分解された一つの四角い顔であることに気がつきます。(目が描かれるジョーンズ作品には全て顔があるのです) 児童心理学者ブルーノ・ベッテルハイムによる有名な 1952 年「Scientific American」の記事から引用された分解された顔のドローイングが絵の中の絵としてかけられ、グルーネヴァルトのイーゼンハイム祭壇画のトレーシング、母性を示す胸、何を意味しているか不明な文字が下辺に描かれています。

様々な要素、側面が作家自身の目を通して描かれた結果、暗号にみちた「コラージュされた」ような作品が生み出されています。どのようにして、そしてなぜ私たちは今私たちが見ているものを見ているのか、というジョーンズの視覚に対する関心と、彼自身の目を使うことによって「私たちの知覚は現実に直接一致するものではなく、外の世界と私たち自身が経験から得た教訓がさりげなく混じり合ったものだということを明らかにするのです。」⁴ 私たちが見ているものは、すなわち私たちが信じているものなのです。

ジャスパー・ジョーンズと日本

ジョーンズは初めて日本を訪れたのは1952年から53年、朝鮮戦争の最中仙台に駐屯した時でした。1964年以降頻繁に来日するようになったジャスパーは60、70年代東京の南画廊で多くの展覧会を開催。1979年には日本文化と歌舞伎演目にインスピレーションを受け、絵画、ドローイング、版画からなる「ウスユキ」シリーズに着手。このシリーズからの作品は2019年ファergus・マカフリー 東京での「Jasper Johns: Usuyuki」展にて展示された。「ジャスパ・ジョーンズ 回顧展」(1977-8年ホイットニー美術館、1978年東京・西武美術館)、「ジャスパー・ジョーンズ 版画1960-1986」展(1986年ニューヨーク近代美術館、1988年日本3会場巡回)、「ジャスパー・ジョーンズ 版画」展(1990年東京・伊勢丹美術館)、「ジャスパー・ジョーンズ 回顧展」(1996-7年ニューヨーク近代美術館、1997年東京都現代美術館)など回顧展が日本国内で開催。

Images:

1. Jasper Johns, *Untitled*, 1995. Lithograph in 8 colors on Torinoko paper, 41 3/8 x 53 1/4 inches (105.1 x 135.3 cm). Edition of 49 © Jasper Johns and ULAE/Licensed by VAGA, New York, N.Y. Published by ULAE
2. Jasper Johns, *Green Angel 2*, 1997. Intaglio, 48 x 24 7/8 inches (121.9 x 63.2 cm). Edition of 13 © Jasper Johns and ULAE/Licensed by VAGA, New York, N.Y. Published by ULAE
3. Jasper Johns, *Face with Watch*, 1996. Intaglio in five colors, 42 x 31 7/8 inches (106.7 x 81 cm). Edition of 50 © Jasper Johns and ULAE/Licensed by VAGA, New York, N.Y. Published by ULAE

⁴ James Rondeau, *Jasper Johns: Gray* (New Haven: Yale University Press, 2007).

ファーガス・マカフリーについて

ファーガス・マカフリーは 2006 年の設立以来、元永定正、白髪一雄、高松次郎など戦後日本美術の国際的な評価を確立させるうえで中心的な役割を担ってまいりました。マーシャ・ハフィフ、ビルギット・ユルゲンセン、リチャード・ノナス、ジグマー・ポルケ、カロール・ラマなど独創性に富んだ気鋭の西洋作家の作品展示も行なっています。日本の美術や文化と深く沿うため2018年3月、ロバート・ライマン展を皮切りに東京・表参道にスペースを開設。2019～2021年は、マシュー・バーニー、キャロリー・シュニーマン、白髪一雄、ジャスパー・ジョーンズ、リチャード・セラ等を含めた、多様なプログラムを展開しています。

プレスに関するお問い合わせ：

電話：+81 (0)3 6447 2660

メール：tokyo@fergusmccaffrey.com

来場者様へのお知らせ：

ファーガス・マカフリー 東京では政府のガイドラインに沿った感染防止対策を行います。ご来廊いただく際は、マスクをご着用いただく事、また中にお入りいただく際にアルコールで手指消毒をお願い申し上げます。正面入口にて、スタッフより非接触検温機にて体温測定のご協力をお願いすることと致します。万が一の際連絡を差し上げられるよう、ご連絡先の記入をお願い致します。スペース内の利用に関して、1度にご来場いただける人数を4名までとさせていただきます。最後に、発熱や咳などの症状がある場合はご来廊をご遠慮頂きますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

Map：

(表参道駅 A3 出口)

